

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 30 年 4 月 12 日 報告者：佐藤 文明、青木 岳史

行事種別	研究会	行事番号	180000368	
開催日	平成 30 年 4 月 7 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	株式会社カーク本社ビル 5F 大会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	高血圧について			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	株式会社グッドライフデザイン (一社) 半田市医師会健康管理センター		佐藤 文明 青木 岳史	
講師	<p>講演 1 高血圧の仕組み ～解り易い RAA 系～ JA愛知厚生連 豊田厚生病院 高井 美帆</p> <p>講演 2 糖尿病と高血圧 名古屋第二赤十字病院 吉川 実季</p> <p>講演 3 高血圧 ～二次性高血圧の検査を中心に～ 富士フイルム和光純薬工業株式会社 中嶋 久衣</p>			
内容	<p>講演 1 では、血圧の定義から高血圧の分類および、その仕組みについて RAA 系を踏まえ講演され、また、血圧に関する検査として、レニン活性やアルドステロンについて、項目の特性を踏まえ、検体採取の注意点や基準値について講演された。講演 2 では、糖尿病と高血圧との関連をテーマに、お互いの共通因子であるインスリン抵抗性の関与や、糖尿病性腎症から二次性高血圧である腎性高血圧を引き起こす発生機序について講演された。糖尿病患者に於ける血圧管理の重要性について再認識した。</p> <p>講演 3 では、講演 1、講演 2 の内容を復習しつつ、二次性高血圧を中心に御高話頂いた。その中でも主に、原発性アルドステロン症の病態・診断・検査を中心に詳しく解説して頂いた。レニンには「レニン活性 (PRA)」と「活性型レニン濃度 (ARC)」が存在し、検体の安定性に違いがある事を解説して頂いた。また、『原発性アルドステロン症の診断治療ガイドライン 2009』の欄外に「活性型レニン濃度 (ARC)」を用いた場合の判定も記されている事を説明して頂いた。今後の「活性型レニン濃度 (ARC)」の動向に注目していきたい。</p>			
参加者	総数：79 名 (会員 76 名、非会員 0 名、賛助会員 3 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 30 年 7 月 7 日 報告者：蜂須賀 靖宏、森下 拓磨

行事種別	研究会	行事番号	180006522	
開催日	平成 30 年 7 月 7 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	株式会社カーク本社ビル 5F 大会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	アルブミンについて			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 安城更生病院 豊橋市民病院	蜂須賀 靖宏 森下 拓磨		
講師	講演 1 栄養指標としての血清アルブミン値 JA愛知厚生連 江南厚生病院 栄養科 重村隼人 講演 2 知って得する、かも。アルブミン製剤の話 JA愛知厚生連 江南厚生病院 原田康夫 講演 3 血清アルブミン値の読み方 公立西知多総合病院 山内昭浩			
内容	講演 1 では、管理栄養士の立場から血清アルブミン値を栄養スクリーニングの指標としてはいるが、アルブミン値が低下する要因は栄養不良 1 つだけではないことについて詳しい説明があった。それらを病歴や身体所見等と併せて総合的診断が必要だと認識することができた。講演 2 では、アルブミンの体内作用からアルブミン製剤の種類や適正使用を遵守するためのガイドラインについて講演があった。アルブミン製剤は日本国内使用量が各国に比較的多いこと、適応となる病態に適切な投与がなされていない現状について説明があった。講演 3 ではまずは検査でのアルブミン値の読み方について詳しい解説があった。講演内容は非常に理解しやすく、アルブミン値が体内において変動するメカニズムについては特に良く理解することができた。また講演の中で経皮的内視鏡的胃瘻造設術 (Percutaneous Endoscopic Gastrostomy; PEG) の術後の血清蛋白・免疫能の変動データがあり、大変興味深い内容であった。アルブミンは臨床検査において基本的な項目であるが、栄養管理・血液製剤・検査データと様々なところで我々と関わりがあり、今回の異なる専門分野 3 者の講演は多方面から 1 つの項目を見ることが出来る貴重な研究会となった。			
参加者	総数：70 名 (会員 70 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	なし			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 30 年 9 月 26 日 報告者：林 克彦

行事種別	基礎講座	行事番号	180010617	
開催日	平成 30 年 9 月 23 日 (日)			
時間	開始	10 時 00 分	終了	16 時 00 分
場所	藤田保健衛生大学 基礎科学実験センター2 階 201 実習室			
テーマ	体験しよう！～理解しやすい ELISA 法～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	JA 愛知厚生連 江南厚生病院	林 克彦		
講師	オーツ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社 金子 武行 【講義】イムノアッセイについて 【講義】結果に影響を与える要因 【講義&実習】ELISA法 【講義&実習】イムノクロマト法			
内容	<p>イムノアッセイの登場から今日まで、様々な新製品の開発・改良・自動化が進められた事で、より簡便で高感度の測定が可能となってきた。しかしその一方で、自動化により反応過程がブラックボックス化し、反応原理を理解・実感し辛くなっており、異常データが出た場合にはその原因への対処が難しくなっている。イムノアッセイの基本原理は全ての試薬で共通しており、基本原理が理解できれば異常値が出た場合でもその原因を推察・理解し易くなる。今回の基礎講座ではイムノアッセイの基本である ELISA 法を体験する事でイムノアッセイの基本原理を理解し、結果解釈の一助となる事を目指した。</p> <p>【講義】イムノアッセイについては、イムノアッセイの分類～抗原抗体反応など、基礎的事項を再確認した。【講義】結果に影響を与える要因では、非特異反応～コンタミネーションなど、偽高値や偽低値の原因と対処に関する事項を学んだ。【講義&実習】ELISA 法では、測定機器の中で行われている操作手順を用手法で行い、反応過程を実感した。【講義&実習】イムノクロマト法では、イムノクロマト法の原理を学習し、実際の測定操作と結果解釈についての考察を行った。</p> <p>今回の基礎講座では普段ルーチンで行っている測定の理解を深めると共に、基礎的事項の重要性を再認識できたと考えられる。</p>			
参加者	総数：26 名（会員 26 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）			
共催、後援など	なし			

愛臨技学部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 30 年 12 月 12 日 報告者：岡本 明紘

行事種別	講演会	行事番号	180023341	
開催日	平成 30 年 12 月 1 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市東区)			
テーマ	生物化学分析検査の今後について			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	公立西知多総合病院 名古屋掖済会病院	山内 昭浩 岡本 明紘		
講師	講演 1 検査機器の変遷と人材育成 JA愛知厚生連 豊田厚生病院 中根 生弥 講演 2 コスト管理と経営、人材育成と組織マネジメントの昔と今後 JA愛知厚生連 安城更生病院 岡田 元			
内容	講演 1 では、検査機器の変遷に伴い、今検査技師には何が求められているのか。学習の場としての臨地実習生の指導、自施設だけでなく近隣施設との関わりを通して、若手技師を育てる豊田厚生病院での取り組みについてご講演頂いた。 講演 2 では、機器の更新の際にどのようなプロセスを経て交渉が進むのか、病院の現在の状況、今後の展望を踏まえて、新しい機器には何が求められるのかを考え、どのように予算を引き出すのかをご講演頂いた。 2 つの講演に共通していた人材育成についてはどの病院でも悩まれている事のように思う。講演 2 に「人間はやらない理由を見つけることに長けている」とあったが、正にその通りと感じる。頑張りたいという思いをどのように伸ばし、それに対する障害を除去するよう周りがどのようにサポートしてあげることができるのか。将来の検査室を担う人材を育てるために適切な指導と、努力に対して評価をしてあげることの大切さを学ぶ、貴重な機会となった。			
参加者	総数：59 名 (会員 57 名、非会員 0 名、賛助会員 2 名、学生 0 名、その他 0 名)			
共催、後援など	共催：生物試料分析科学会 東海北陸支部			

2018.12.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 31 年 2 月 11 日 報告者：尾崎 靖将、中島 裕人

行事種別	講演会	行事番号	180023341	
開催日	平成 31 年 2 月 2 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	株式会社スズケン 名古屋支店 2F 会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	平成 30 年度愛臨技精度管理報告、もっと！ビリルビン			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	名古屋第一赤十字病院	尾崎 靖将		
	JA 愛知厚生連稲沢厚生病院	中島 裕人		
講師	講演 1 臨床化学部門 精度管理報告 愛知医科大学病院	森部 龍一		
	JA愛知厚生連豊田厚生病院	高井 美帆		
	講演 2 免疫血清部門 精度管理報告 名古屋掖済会病院	岡本 明紘		
内容	講演 3 もっと！ビリルビン 株式会社LSIメディエンス 診断薬事業本部 学術部 第1グループ	平野 佑樹、本田 亨		
	<p>精度管理報告では両部門とも例年と大きく傾向は変わらず、良好な結果が得られたことが報告された。しかし、臨床化学部門では、測定方法等の未回答施設が多くみられた。免疫血清部門では、イムノクロマト法において、検出感度の差により陽性試料を陰性と判定した施設があった。また、来年度より日臨技制度保証施設認証制度取得に向けて、ドライ法の評価幅を再設定することなどが報告された。</p> <p>講演 3 では、まずはビリルビンの生成と代謝について詳しい講義があった。病態別にビリルビンが体内で代謝される流れを良く理解することができた。特異的酵素法以外では、血中半減期が 2 週間と長いビリルビンを測りこんでしまう。そのため、病態回復時の結果解釈に注意が必要であること、直接ビリルビン参考基準値が異なることなど興味深い内容であった。ビリルビンは臨床検査において基本的な項目であるが、直接ビリルビン測定の詳細化の話題もあり、今後の動向に注目していきたい。</p>			
参加者	総数：75 名（会員 61 名、非会員 0 名、賛助会員 14 名、学生 0 名、その他 0 名）			
共催、後援など	なし			